

社会資本総合整備計画 事後評価

「JR春日井駅を拠点とした持続可能なまちづくり
(街路事業)(防災・安全)」

令和2年3月

愛知県 春日井市

社会資本総合整備計画（市街地整備） 事後評価

計画の名称	1 JR春日井駅を拠点とした持続可能なまちづくり（街路事業）（防災・安全）																									
計画の期間	平成28年度～平成29年度（2年間）	交付対象	愛知県 春日井市																							
計画の目標	人口減少社会の到来や少子高齢化の進行に対応したコンパクトなまちづくりの検討が急務とされている。このような中、春日井市では、都市計画マスタープラン（2010）において、「人と地域が輝き、安全安心で躍動する都市」を将来像に掲げ、都市交流拠点である利便性の高い駅周辺や中心市街地などに都市機能を集積し、便利で快適に暮らせるまちづくりを目標としている。 こうした中、一日あたり平均利用者数が3万人を超え、市役所の最寄り駅であるJR春日井駅においては、高齢者や障がい者等が、旅客施設及びその周辺の歩行空間を不自由なく移動できる環境の整備が重要な課題であることから、平成19年度に策定した「JR春日井駅周辺バリアフリー基本構想」に基づき、誰もが使いやすい自由通路等の整備により、駅へのアクセス向上や南北地域間交通の円滑化を図り、都市機能が集約された持続可能なまちづくりを行う。																									
計画の成果目標（定量的指標）	1) 南北駅前広場間を歩行者が移動する所要時間を8.88分（H27当初）から、3.25分（H29末）に短縮させる。 2) 第五次春日井市総合計画推進の指標である市民満足度調査における「誰もが、不便を感じずに移動できる」の満足度指数を、2.59（H27当初）から2.66（H29末）に増加させる。 3) 当該駅を中心に歩いて暮らせる区域内（半径1km）における人口を20,786人（H27当初）から20,813人（H29末）に増加させる。																									
定量的指標の定義及び算定式	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">定量的指標の現況値及び目標値</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>当初現況値 (H27当初)</th> <th>中間目標値 (H28末)</th> <th>最終目標値 (H29末)</th> </tr> <tr> <td>1) 南北駅前広場間を歩行者が移動する所要時間 (北口駅前広場と南口駅前広場間の歩行者の移動時間)</td> <td>8.88分</td> <td>—</td> <td>3.25分</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2) 「誰もが、不便を感じずに移動できる」の満足度指数 (市民満足度調査において「誰もが、不便を感じずに移動できる」の満足度を1（不満）～5（満足）で答えた指数の平均値)</td> <td>2.59</td> <td>—</td> <td>2.66</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3) 駅を中心に歩いて暮らせる区域内における人口 (当該駅を中心に半径1kmの区域内の人口)</td> <td>20,786人</td> <td>20,801人</td> <td>20,813人</td> <td></td> </tr> </table>				定量的指標の現況値及び目標値			備考	当初現況値 (H27当初)	中間目標値 (H28末)	最終目標値 (H29末)	1) 南北駅前広場間を歩行者が移動する所要時間 (北口駅前広場と南口駅前広場間の歩行者の移動時間)	8.88分	—	3.25分		2) 「誰もが、不便を感じずに移動できる」の満足度指数 (市民満足度調査において「誰もが、不便を感じずに移動できる」の満足度を1（不満）～5（満足）で答えた指数の平均値)	2.59	—	2.66		3) 駅を中心に歩いて暮らせる区域内における人口 (当該駅を中心に半径1kmの区域内の人口)	20,786人	20,801人	20,813人	
	定量的指標の現況値及び目標値				備考																					
	当初現況値 (H27当初)	中間目標値 (H28末)	最終目標値 (H29末)																							
1) 南北駅前広場間を歩行者が移動する所要時間 (北口駅前広場と南口駅前広場間の歩行者の移動時間)	8.88分	—	3.25分																							
2) 「誰もが、不便を感じずに移動できる」の満足度指数 (市民満足度調査において「誰もが、不便を感じずに移動できる」の満足度を1（不満）～5（満足）で答えた指数の平均値)	2.59	—	2.66																							
3) 駅を中心に歩いて暮らせる区域内における人口 (当該駅を中心に半径1kmの区域内の人口)	20,786人	20,801人	20,813人																							
全体事業費	合計 (A+B+C)	2,365 百万円	A	2,365 百万円（うち提案事業分 0円）	B	0 百万円	C	0 百万円	効果促進事業費の割合 (A(提案分)+C)/(A+B+C)	0.00%																

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
事業に関わる全ての課（都市政策課、都市整備課、道路課）による庁内の横断的な組織で検討会議を開催し、事後評価を実施した。	令和元年度 公表の方法 春日井市のホームページで公表

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業														
A1 基幹事業														
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考
									H28	H29	H30			
1-A-1	街路	一般	春日井市	直接	春日井市	都市計画道路8・6・208号JR春日井駅自由通路整備事業	自由通路整備100m	春日井市					2,365	
合計											2,365			
B 関連社会資本整備事業														
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考
									H23	H24	H25	H26		
合計											0			
C 効果促進事業														
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考
									H23	H24	H25	H26		
合計											0			

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

- ・自由通路の整備により、鉄道による南北地域の分断解消が図られ、地域間の行き来の利便性が向上した。
- ・自由通路の整備により、乗換利便性の向上をはじめ、高齢者や障がい者の方々など誰もが不自由なく移動できる環境が整備された。

II 定量的指標の達成状況	指標① 南北駅前広場間を歩行者が移動する所要時間	最終目標値	3.25分	目標値と実績値に差が出た要因	当初の計画どおりに自由通路が整備され、駅南北の駅前広場間の移動経路の短縮が図られた。
		最終実績値	3.25分		
	指標② 「誰もが、不便を感じずに移動できる」の満足度指数	最終目標値	2.66	目標値と実績値に差が出た要因	自由通路をはじめ、駅のバリアフリー化や駅前広場等の整備により、交通結節機能の強化を図ったため、目標値を上回る満足度指数が得られたと考える。
		最終実績値	2.93		
	指標③ 駅を中心に歩いて暮らせる区域内における人口	最終目標値	20,813人	目標値と実績値に差が出た要因	駅周辺人口は微増傾向ではあるものの、自由通路等の公共施設の整備のみによる周辺人口の増加は限定的であり、目標値には至らなかった。
		最終実績値	20,803人		
	指標④	最終目標値		目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値			

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)

- ・自由通路等の整備を契機とし、駅南東地区において権利者による市街地再開発事業が進められており、今後、駅周辺の賑わい創出や居住の推進に寄与するものと考えられる。

3. 特記事項 (今後の方針等)

【効果を持続させるテーマ】 市の玄関として利用しやすくにぎわいのある都市交流拠点づくり

【効果を持続させるための基本的な考え方】
自由通路等の整備を契機とした駅周辺の賑わい創出を図るため、J R春日井駅周辺地区市街地総合再生計画に基づき、駅南東地区において実施されている市街地再開発事業を支援するとともに、引き続き市の玄関にふさわしい都市交流拠点づくりに取り組む。

【想定される事業案】
市街地再開発事業
優良建築物等整備事業 等